

ISSN 0912 - 0114

南予生物

Vol.17 2013



南予生物研究会

<表紙写真の解説>

写真上：遊子水荷浦の段畑

左下：イヌノフグリ 中央下：トビ 右下：クズノチビタマムシ

2007年7月26日に「重要文化的景観」に選定された遊子水荷浦（愛媛県宇和島市）の段畑は、まさに「耕して天に至る」という昔の宇和海沿岸の景観が保全された南予地方の中でも特異的なところである。

2006年4月－2007年1月の調査では、野生状態で確認されたシダ植物が15科34種（うち3変種，1雑種），裸子植物が2科2種，被子植物の双子葉植物は72科272種で離弁花類53科169種（うち2亜種，13変種，3品種），合弁花類19科103種（うち1亜種，13変種，4品種，1雑種），単子葉植物13科109種（うち1亜種，22変種，1品種）の計102科417種（うち4亜種，51変種，8品種，2雑種）であった。ここの段畑は宇和海沿岸における段畑の最後の状況を現在に伝えるところであると同時に，以前の段畑の植物相が残っている大変貴重なところであると考えられる。段畑の畑地雑草にはスベリヒユ，アカカタバミ，コニシキソウなどのほか，ホトケノザ，メヒシバ，マルバツユクサ，ツユクサなどが，石垣の植物にはトラノオシダ，アカカタバミが多く，次いでホトケノザ，ツメクサ，イヌケホシダ，イノモトソウ，チチコグサモドキ，アオイゴケなどがあることがわかった。さらに，イヌノフグリ（写真左下）やオニツルゴ，コササキビ，クルマバアカネといった貴重な植物が記録された。一方，帰化植物は39科125種が記録され，帰化率は29.5%であった。量的に多いものにはコニシキソウ，ルリハコベ，コセンダングサ，オオアレチノギク，チチコグサモドキなどがあるが，全体的には各移入植物の量は少なかった。動物相については，鳥類ではトビ（写真中央下），ミサゴ，ヒヨドリ，アオゲラ，コゲラなどの留鳥の他，春と秋の渡りの時期にはサシバ，ヤブサメ，コムクドリ，ツグミなどが，冬季にはセグロカモメ，オオセグロカモメ，シロハラなどが記録されている。昆虫類では，イチモンジセセリ，ラミーカミキリ，クズノチビタマムシ（写真右下）などが記録されている。

「景観文化財」に指定された後，観光客が多く訪れるようになってきた。毎年4月の「だんだん祭り」というイベントは多くの人で賑わう。段畑を利用して栽培されるジャガイモはとても美味しいとの評判である。しかし，この地域は高齢化が進み，段畑の管理においては以前のように手作業で石垣の雑草の除草をすることは少なくなり，除草剤の使用が目立つようになってきており，石垣などに残った貴重な植物の減少が懸念されている。

写真・解説：橋越清一（愛媛県立南宇和高等学校）